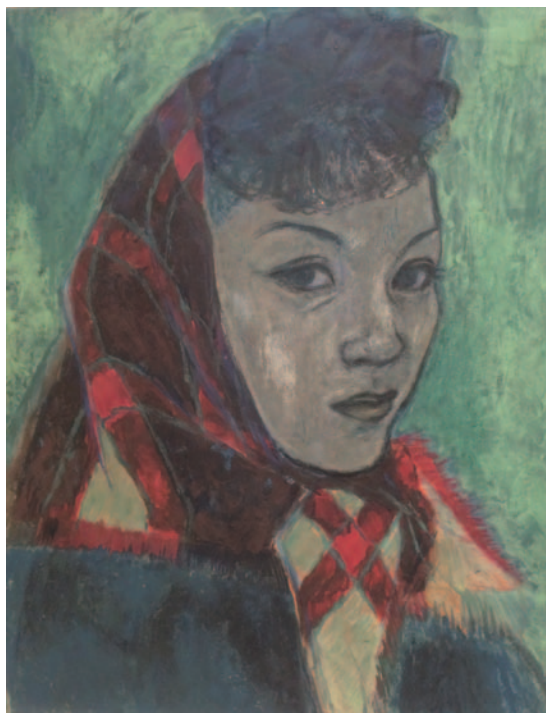


# 朝倉摂

## Setsu Asakura, the 1950s



### “日本画家” 朝倉摂、未発表作品を含む50点

2014年3月に惜しまれながら他界された朝倉摂氏の没後初めての展覧会です。舞台美術に転向する前の40年代の日本画や戦時中のデッサン、50年代の社会性の強い作品など、未発表作品を含む70点を展示します。彫刻家の父・朝倉文夫から独立し、母となり、環境が変化する中、女性の新しい生き方やファッションなどのオピニオンリーダーでもありました。本展は作品や資料などから、その時代を垣間見られる貴重な機会です。

会期：2015年7月8日(水)～25日(土)

会場：GALERIE PARIS

■ このプレスリリースに関するお問い合わせ

GALERIE PARIS



〒231-0021 横浜市中区日本大通14 旧横浜三井物産ビル1F

Tel: +81-45-664-3917

E-mail: [info@galerieparis.net](mailto:info@galerieparis.net)

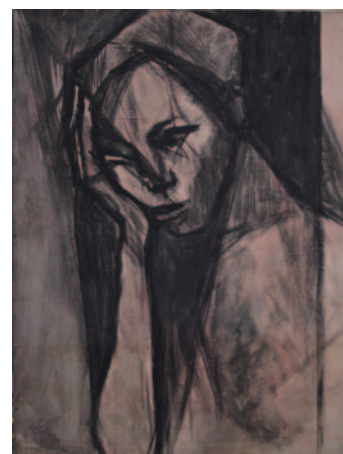
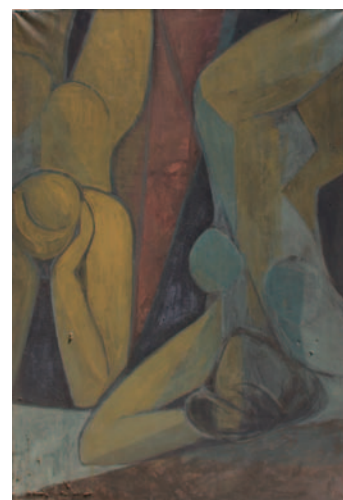
担当：森田

1. 絵画作品（自画像・デッサン・挿絵等）
2. 朝倉摂等身大パネル
3. ご縁のおありの各界の方々からのメッセージ
4. 後進に向けての映像「朝倉摂ワークショップ&展覧会」（2009年秋）

舞台美術家として広く周知されている氏ですが、日本の戯曲でも海外のものであっても、独創的で夢のある舞台の基軸になったのは、伊東深元に師事し、福田平八郎の影響も受けたという日本画家としての表現力です。

「そもそも芸術ってもんはわからない」と齒に衣を着せぬ発言をされ、胡坐をかいたような権威主義を嫌い、後ろを振り返らず、前へ前への前進あるのみで駆けぬけた 90 年あまりの人生の中で、一貫して否定してこられたのがこの過去の画業。しかし、その力量は現在誰が見ても目を見張る程の観察力と描写力に裏付けられています。

また、本展覧会では 2009 年に文化庁の支援を受け行われたワークショップの映像を放映いたします。若い世代へおしみなく技術を伝える強いまなざしを、ここでも感じ取ることができるでしょう。



上：裸婦 C  
1950 年  
860mm×1170mm

下：女  
1954 年  
455mm×605mm



朝倉摂ワークショップ&展覧会  
2009 年 10 月 4 日～18 日  
BankART Studio NYK



## 朝倉摂プロフィール



1922年、東京谷中に彫刻家朝倉文夫の長女として生まれる。16歳で伊東深水に師事し日本画を学ぶ。41年18歳で第4回新文展（現・日展）に「小憩」が初入選となり43年まで出品。翌年より福田豊四郎や吉岡堅二らによる在野の新美術人協会（現・創画会）にも出品。その流れから戦後は創造美術に参加。

50年、第3回創造美術展で「群像」が奨励賞受賞。翌年、創造美術が新制作派協会と合流して新たに創立した新制作協会日本画部に参加。52年、第16回新制作に「働らく人」（山口県立美術館収蔵）を出品。同作は翌年、第3回上村松園賞受賞。この頃、労働者をテーマとした作品を多数制作する。その一方、高山辰雄らによる研究発表団体の一采社や現代日本美術展、日本アンデパンダン展には女、母、親子というテーマの作品を精力的に発表した。

59年、「黒人歌手ポール・ロブソン」（国立近代美術館収蔵）を新制作展に出品。また安保闘争に参加し、作品テーマも社会性が強くなる。60年、日本画の新世代展に「黒人歌手ポール・ロブソン」、「挫けた男」、「閉ざされた部屋」、「日本1959（黒い太陽ととらわれ人）」の4点、65年、戦中世代の画家展に「幸せの外の不幸せ」、72年、戦後日本美術の展開―具象表現の変貌に出品。いずれも国立近代美術館。また絵画と並行して、小説や絵本の挿絵なども多数手がける。

70年、ロックフェラー財団の招聘で舞台美術研究のため渡米。手がけた舞台は歌舞伎から現代演劇まで幅広いジャンルで1200を超え、海外公演でも高い評価を得る。80年テアトロ演劇賞、日本映画アカデミー賞、82年再び日本映画アカデミー賞、87年紫綬褒章、89年朝日賞、2006年文化功労者章、14年第21回読売演劇大賞芸術栄誉賞などを受賞。日本の戦後演劇を牽引した功績は大きい。

### ■ このプレスリリースに関するお問い合わせ

**GALERIE PARIS**  


〒231-0021

横浜市中区日本大通14 旧横浜三井物産ビル1F

Tel: +81-45-664-3917

E-mail: [info@galerieparis.net](mailto:info@galerieparis.net)

担当：森田

[www.galerieparis.net](http://www.galerieparis.net)